

図表 2.22 離婚に対する意識の各尺度得点に対する分散分析の結果

尺度名			30代	40代	50代	60代	検定	Scheffe法
離婚家庭の子どもへの否定的イメージ	男性	平均	17.76	16.94	16.80	16.89	性 *	男>女
		標準偏差	4.10	5.36	4.58	4.59		
		N	50	54	59	55		
	女性	平均	16.55	15.37	14.83	15.14	年代 ns	交互作用 ns
		標準偏差	4.32	4.08	4.58	4.62		
		N	73	57	76	64		
離婚する親への否定的イメージ	男性	平均	25.08	23.53	24.26	26.00	性 ***	男>女
		標準偏差	6.76	5.94	6.63	6.46		
		N	49	55	58	56		
	女性	平均	21.12	21.32	22.19	26.22	年代 ***	60代>30代,40代,50代
		標準偏差	4.69	6.05	6.45	6.58		
		N	73	57	75	65		
離婚に対する否定的評価	男性	平均	2.71	2.36	2.46	2.79	性 ***	男>女
		標準偏差	1.02	1.11	1.07	1.05		
		N	49	55	59	57		
	女性	平均	2.10	1.93	2.22	2.59	年代 ***	60代>40代
		標準偏差	1.00	0.95	1.00	1.07		
		N	71	56	76	64		
離婚に対する好意的評価	男性	平均	18.68	18.91	18.48	18.77	性 **	女>男
		標準偏差	2.42	2.93	2.94	2.81		
		N	47	53	58	56		
	女性	平均	19.84	19.56	19.52	19.25	年代 ns	交互作用 ns
		標準偏差	2.43	3.08	2.82	2.64		
		N	73	57	75	64		
離婚家庭に対する同情	男性	平均	8.50	8.86	8.62	9.13	性 ns	
		標準偏差	1.99	1.94	1.78	2.06		
		N	50	56	58	56		
	女性	平均	9.10	8.53	8.52	8.94	年代 ns	交互作用 ns
		標準偏差	1.86	2.16	2.21	1.94		
		N	73	57	75	66		
離婚による人間的成長	男性	平均	7.42	7.22	7.05	7.36	性 ***	女>男
		標準偏差	1.91	1.81	2.01	2.04		
		N	50	55	59	56		
	女性	平均	8.15	7.97	8.03	8.14	年代 ns	交互作用 ns
		標準偏差	1.85	1.85	2.16	2.18		
		N	73	57	75	66		

注:\*\*\* $p<.001$ 、\*\* $p<.01$ 、\* $p<.05$

### 第3節 結婚に対する意識

#### 1. 結婚に対する意識の実態

##### (1) 結婚に対する考え(Q2)

##### ① 結婚に対する考えの全体的傾向

結婚に対して、「今の世の中、結婚しなくても生きていける」、「問題のある結婚生活なら、早く解消した方がよい」と考える回答者は8割強であり、「男性は結婚しないと、一人前とはいえない」、「女性にとっての幸せは、結婚することではない」と考える回答者は4割であった。8割の回答者が「結婚しても、配偶者とは別に自分だけの人生の目標を持つべきである」と考え、9割の回答者が、「結婚後も、夫婦は互いに異性としての魅力を持つべきだ」と回答した。

一方、「結婚するのは、当たり前のことと思う」、「生涯独身で過ごすというのは、好ましい生き方ではない」、「結婚したら、子どもを持つべきだ」、「結婚生活に、多少の我慢は必要だ」、「一度結婚したら、最後まで配偶者に添い遂げるべきだ」と考える回答者も5割以上いた。昨今関心を集めている夫婦別姓には、8割弱が反対していた。

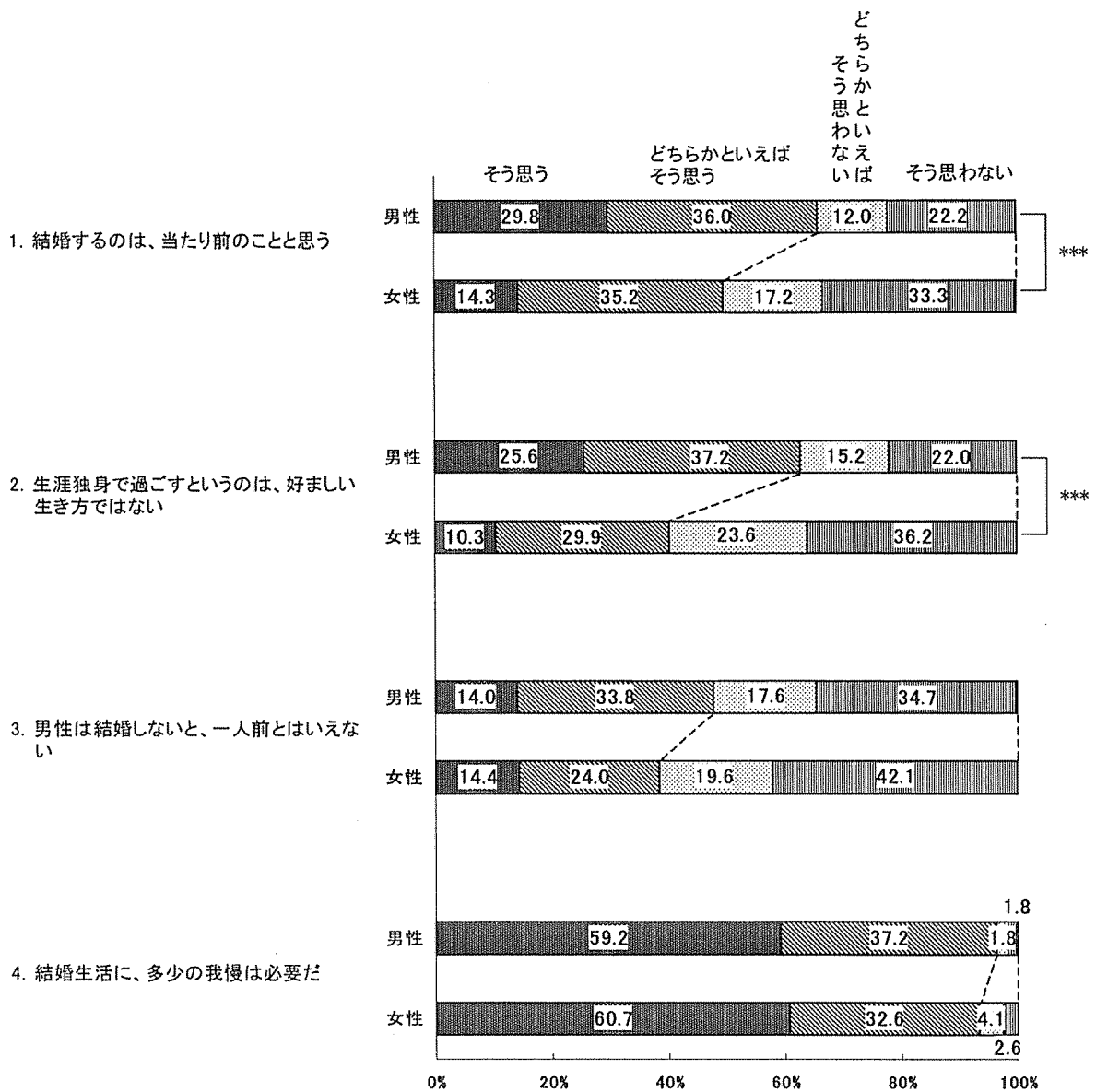
全体として、結婚しないという生き方も選択肢のひとつであるととらえられ、結婚が一

人前の男性や女性としてのみなされるための条件であるという考えは否定されていた。しかし、半数は、結婚をし、子どもを持ち、結婚生活を維持させていくという保守的な結婚観もまた持っていた。

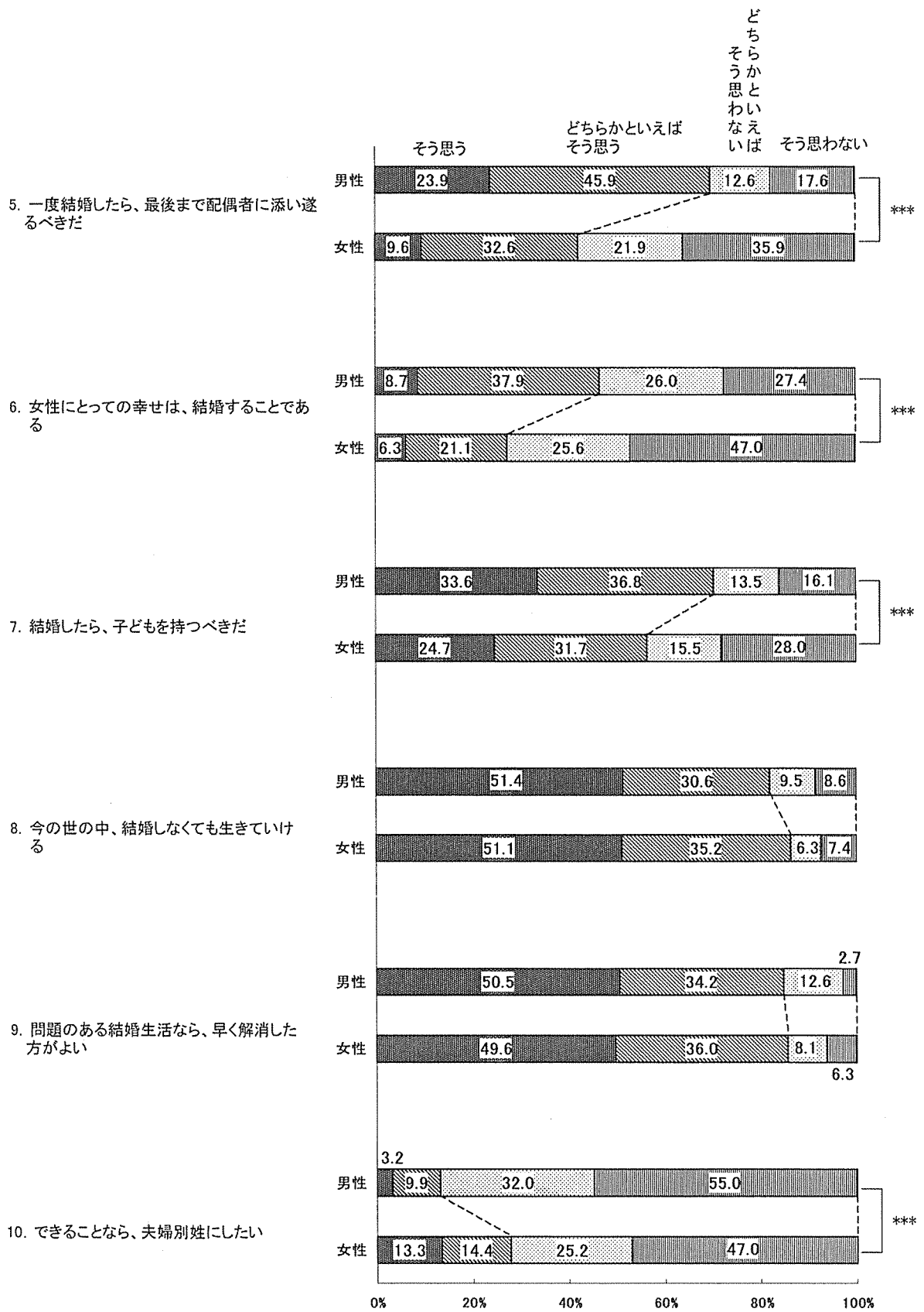
② 結婚に対する考えにおける性差

男女別にみた結婚に対する考えの回答結果を図表 2.23 に示す。

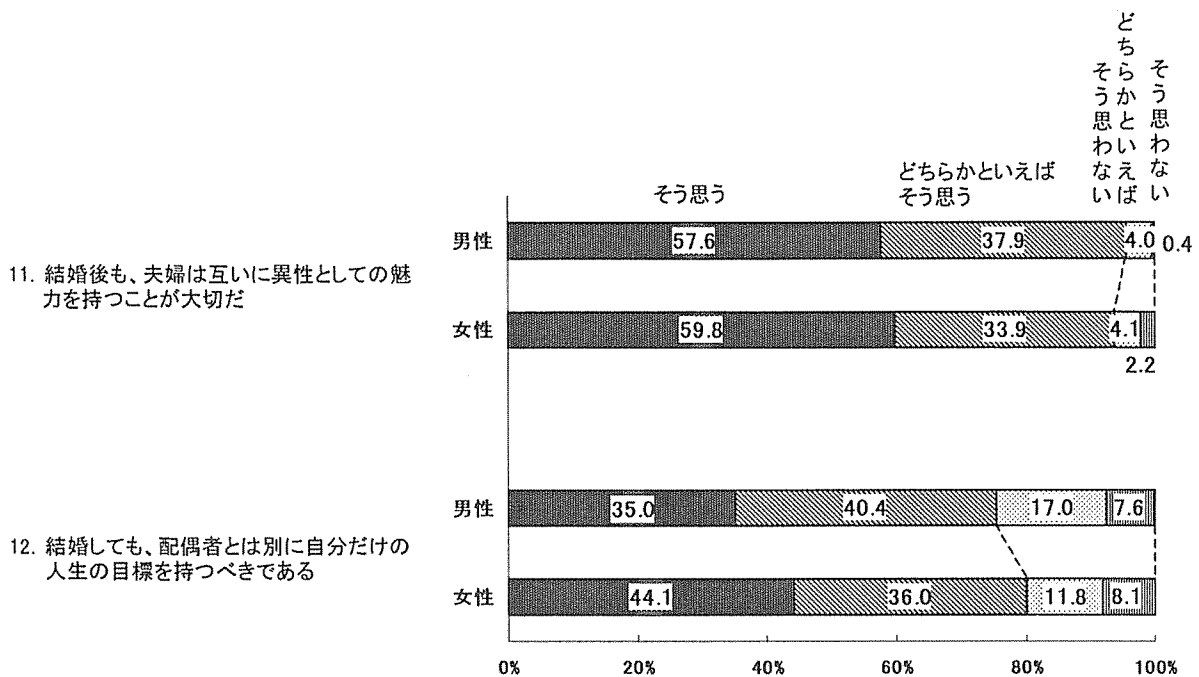
図表 2.23a 男女別にみた結婚に対する考え(Q2)



図表 2.23b 男女別にみた結婚に対する考え(Q2) (続き)



図表 2.23c 男女別にみた結婚に対する考え(Q2)(続き)



男性は女性よりも、「結婚するのは、当たり前のことと思う」、「生涯独身で過ごすというのは、好ましい生き方ではない」、「一度結婚したら、最後まで配偶者に添い遂げるべきだ」、「女性にとっての幸せは、結婚することである」、「結婚したら、子どもを持つべきだ」と考えていた。男性は、結婚に対して保守的な考えを持っており、結婚するのは自明のことという考えが強く、結婚したからには、子どもを持ち、最後まで添い遂げるべきだという意識が高かった。

(2) 結婚によって得られるもの・失うものに対する考え(Q3)

① 結婚によって得られるもの・失うものに対する考えの全体的傾向

結婚すると、「安らぎ」、「人間としての成長」、「社会的信用」が得られると8割前後の回答者が感じていた。一方、7割の回答者が、結婚すると「お金が自由に使えない」、「自分の時間が少なくなる」と感じており、5割以上の回答者が、「家庭のために、自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ」と回答していた。全体として、結婚で得られるものと失うものの両側面が認識されていた。

② 結婚によって得られるもの・失うものに対する考えにおける性差

男女別にみた結婚によって得られるもの・失うものに対する考えの回答結果を、図表 2.24 に示す。

図表 2.24a 男女別にみた結婚によって得るもの・失うものに対する考え(Q3)

